

創立74周年  
令和6年度5月号



# 咲かせよう大正の花

# つなげよう大正の未来

台東区立大正幼稚園

HP: <https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1380011>



## 乗り越えようとする姿

園長 北村 恵

4月は天気も気温もなかなか安定せず、最近、体調を崩す子供たちが増えてきています。まさかの大雨の入園式から始まった新入園児の園生活ですが、人数の少なさゆえか、プレ保育のおかげか、園に慣れるのが早く、園庭や保育室を所狭しとフロアーカーを乗り回したり、先生とダンスを踊ったりして、元気いっぱい遊ぶ姿が見られています。

昨年度からの園内研究のテーマに沿って、自分なりの課題を乗り越えようとしている子供たちの姿を、一人一人丁寧に見とっているところですが、先日、子供たちの保育中の写真を撮りにいった教諭が「自分なりに課題を乗り越えようとしている子供の姿が、あちらこちらで見られています。子供たち頑張っていますね」と言って戻ってきました。

確かに4月の子供たちはとても大変です。入園したばかりの3歳児は、今まではいつも保護者がそばにいて見守ってくれていたのに、幼稚園では自分で園服のボタンをはずし、ロッカーにしまい、コップやタオルをカバンから出して、タオル掛けに掛けなければなりません。家とは違う環境や触ったことのない遊具に、興味をもつ子供もいれば、逆にそれを不安に思う子供もいます。泣いてその気持ちを表せる子供もいれば、じっと我慢している子供もいます。

4歳児は慣れた保育室から離れ、遊具も変わります。一つ一つの遊具が大きくなるので、一人では動かせず、友達に声をかけなければなりません。登園したら名札も自分でつけます。もちろん最初は難しくうまくいかないのが、先生が手伝うのですが「手伝って！」の一言が言えずに手に持ったままの子供がいます。自分で何とかしようと必死に格闘している子供もいます。

5歳児は初めての当番活動に挑戦しています。昨年度、カッコいい年長児の姿を見てきたとはいえ、見るのとやるのでは大違い。グループで欠席調べに回るのもなかなか大変です。誰がどのクラスの報告をするのかも決めなければなりません。自分のやりたい仕事だけできるわけでもありません。グループで作る鯉のぼりでは、相談して決める内容をなるべく少なくし「みんな協力したら素敵なこいのぼりになった」という経験ができるようにと担任が配慮していますが、それでもやっぱり揉めたり誰かが怒りだしたりすることも起きます。

この様に自分の気持ちと葛藤し、折り合いをつけ、何とか乗り越えようとする子供たちの姿があちらこちらで見られるのが、入園進級当初のこの時期だと、研究を通して改めて感じるところです。そして、教職員全員で、その姿を「頑張れ！」という気持ちで見守り、乗り越えられるタイミングが来るように援助の方法を探っています。今年度も、子供たちがたくさん悩んでつまずいて、自分の力で乗り越える体験をたくさんしてほしいと願っています。